

HAND in HAND

はんど・いん・はんど

〔ハンドの100号記念準備〕

■1989年です。あっというまに1988年は過ぎゆきました。年頭にあっていろいろ心に誓ったことがあったのに、結局、どれひとつできずじまい。

でも胃潰瘍も薬で治せし、ニコニコ離婚講座の100回記念は無事終ったし、まああの1年だったかなとも思います。

■嬉しかったのは、要望書に多くの人の賛同を得られたばかりか、全国各地から要望書を送付してほしいとの依頼が相次いだことです。電話のお問い合わせに、聞いてみると家裁の調査官、調停委員、民生委員、福祉事務所といった人が多く、私の本もよく読んでくださっているし、熱心に離婚と取り組んでくださっている方の多いことに感激しました。

■さて、今年8月に、ハンド・イン・ハンドのこの会報が100号を出すことになります。そこで、8月中の金土日、または土日月の3日間を（日程は2月には決定でき、3月1日号で報告できると思います）、埼玉県嵐山の国立婦人教育会館で記念のシンポジウムにあてたいと考えています。「離婚と社会制度」「離婚と子供」「離婚と経済」「男と女、再婚」など、意見をかわしたいテーマはいくつもあります。また意見を聞きたい講師もいるでしょう。厚生省や労働省の人に来てもらうのもいいかもしれません。

■記念のシンポジウムのあり方について、また、他にどんなことをしていきたいかなど、ご意見をお寄せください。また、全国のハンドの会員の方に来ていただきたく、どなたか安い費用で来られる方法など伝授してください。そして、皆さん、ぜひ今から交通費をためておいてください。

（円より子）

海を渡る鳥は、波間を漂う流木に憩うという。離婚—それは旅の半ばの一つの出来事。新たな旅立ちをした女たちはいま手をとりあい、女であるがゆえの偏見と差別に向きあう。ハンド・イン・ハンドは生きやすい社会をめざし、支えあう女たちの流木である。

第93号 200円 禁無断転載

【発行日】1989年1月1日

【発行所】現代家族問題研究所
東京都渋谷区神宮前3-33-2-202
〒150 電話03 (402) 7354, 4385

【分室】0484-81-0496 児玉

【発行・編集人】円より子

【編集スタッフ】有賀佐知子

【印刷】 株式会社日島

93

母の想い 子の想い

あけましておめでとうござい
ます。新春号は、私のもとに届いた
三つの嬉しい手紙を紹介しまし
よう。

ひとつは、長年ハンドの会員で
あり、私の友人でもあるTさんか
らのもの。三人の子供たちを、夫
と姑に託して離婚せざるをえな
かった彼女は、全く見知らぬ土地
大阪に行き、そこでゼロからスタ
ートを切りました。今でこそ仕事
の上でも地位を築き、生活も安定
している彼女ですが、多分、さま
ざまの苦労があったにちがいあり
ません。でも、時々会って話す彼
女の口から出るのはいつも子供
たちのことばかりでした。他人に、
子供がいること、おいてきたこと

長い間話せなかったこと。夢によ
く見ること。子供がけがをした夢
を見て、汗びつしよりで目をさま
し、朝になるのを眠れないまま待
って、別れた夫の会社に電話をい
れると、本当に子供がけがをして
入院していたこと。誕生日やクリ
スマス、入学の祝いを送ったけれ
ど、自己欺瞞ではないかと悩んで
やめてしまったことなどなど。そ
して、会いたいと切実に思いなが
ら、おいてこざるをえなかったと
しても引きとれなかった自分、子
供をおいてまで離婚を選んだ自分
をどこかで責める気持ちがあつて、
会いに行けないのだということ
私は聞いていました。

だから、今回の彼女の手紙を読
んで、我がことのように嬉しく思
ったのです。

一方、若い未婚のS・Oさんは、
小学生の時に両親の離婚を経験。
父親に弟と共にひきとられ、その
後父親は再婚。彼女は大学生にな
った時から今日まで、家を出て一
人でくらしています。そして、生
みの母からの「会いたい」という
連絡で会いはしたものの、余り会
いたいと思わないし、「一緒にくら
してほしい」という頼みは拒否し
ています。

Tさんとは全くケースも事情も
違いますが、母と子、それも別れ
てくらした親子の問題を考える上
で大変参考になると思います、あわ
せて載せることにしました。

また、三つ目の手紙は、大学四年
生のY・Oさんからのもので、彼女
は両親が別居し、財産分与をめぐ
って裁判になっている中で、学業を続
けるため二十種以上のアルバイト
をし、かつ母と弟のために料理家事
をこなす中で、私と会い、悩みを
ぶつけてきたのです。手紙を読めば
わかる通り、就職先も決まって気持
も落ちついた彼女は十二月の「子供
のための離婚講座」ではパネラーにな
ってくれました。

「十七年ぶりに会えた息子」

大阪 T・N

今日は、私事ながらぜひ聞いて
いただきたいうれしいことがあり
ました。

私が三人の子供を置いて家を出
てから十数年間、面接することも
なく過ごしてきたことは、以前、
お話ししました。その間、もとの
夫から年に一、二回子供たちの様
子を聞くのみでした。

この秋、二十八歳になる長男が
結婚する、という話を聞かされた
のです。今、会いに行かなければ、
という気持ちに動かされて、私は
お祝いを用意して浦和へ行きまし
た。長男の勤め先の会社名とおよ
その場所がわかっていました。電
話をしてから、とも考えましたが、
もし、拒否されたら、と思うと勇
気が出ず、思い切って捜しながら
行っただけです。

会社の入り口では、心臓がどうにかなるかと思うほど。足が地につかないといった感じでした。呼ばれて出て来た彼は、一瞬私を見つめました。そして「あっ」とにつこりしたのです。その顔を見たとき、私はすべてのものに感謝したい気持ちでした。

仕事時間中の面会ですから、十七年あまりの空白を埋めることなどとてもできません。彼の方から会社は六時に終るから、それからもう一度話そうと言われたときは、まさに天にも昇る気持ちでした。夕食をとりながら、あらためてゆつくり話しました。夫からきいていた事柄をたしかめているうちに長い空白が少しずつ埋められて、でも夢を見ているような気持ちでした。これまでも何度、夢の中で子供たちと会ったことでしょう。今度こそは夢ではなかったのです。

二人の子供には会えませんでした、この先もゆつくりと人間関係を回復して行こうと思います。

息子は「ぼくの方も会いたいと思っていました。結婚の報告もしたかったし」と言ってくれました。新居の住所と電話番号を書いてくれた紙は、私の宝物になりそうです。

まだまだいっぱいお話したいことはありますが、いまの私、みつともないほど舞い上がっていますので、もうやめておきます。いまはでも、他人にどう見られても、このうれしさを世界中に報告したいくらい。

円さんには、以前いろいろお話ししたこともあり、また「ハンド・イン・ハンド」に、こんな例もあると出していただきたくもあって、ご迷惑もかえりみず、長々と書いてしまいました。

ほんとうに、自分の感情だけに溺れ切った手紙で、あとになつたら恥ずかしいかもしれません、思い切って出します。

では、お寒さの折からくれぐれもお体をお大切になさいますように。

一度ぜひお会いしたく存じます。

かしこ

「幼い頃に別れた

生母のことなど

娘の立場から

東京 S・O

ハンバ・イン・ハンドの十二月号を読んで、手紙を書きたくなつたので書くことにします。

十一月の第三土曜日の集まりの時、母の離婚後の生活が今ではとうとう生活保護適応となり、一人住まいをしているんですが、そのことに対して、娘の私の気持ちを話しました。

母は、十八年前に離婚して、私とは別居しました。八年前に私が大学に入って下宿したと同時に、「会いたいから」、さらに「一緒に住んでほしい」と言われましたが、私の答えはNOでした。母は、私が成人するまでということと父と約束して、その日が来て、私個人の選択権が持てる日を待っていました。そして、私はNOの選択をしました。

私は自分の選択に自分の責任を感じます。と同時に、母も、自分の置かれている状況に責任を取ったのだということも事実のようです。現実も過去においても……。

※ ※ ※

十二月号の三ページに書かれていた「多かれ少なかれ、男性が潜在的に持っている、こうした意識（私の頭の中にある女性というのは空想中の生き物でして、ある意味で女性というのは、かわいくて、きれいで、セックスの対象で、とにかく自分が独占して暮らせる：勝手にでつちあげた女性像：）と、女性のシンデレラコンプレックスが、現在の大半の夫婦の関係を作っている気がします」というのは、なんて的を得ているんだろうと納得してしまいました。これを感じた方が昭和二年生まれの方、もちろん男性、というのなんだか「おー！」という感じです。男性が自らの空想の女性像を、幻である現実とし、目の前の妻を見つめ、しっかりと実像をつかもうとするまで、時間がかかるんだなあと思いました。もちろん、あらゆる人がそれぞれ自分の愛する人に対して、あこがれや理想を見出したりしま

す。もちろん私もシンデレラコンプレックスがありますが、家庭、結婚というをよく考え、自分という人間をしつかり見つけた時、「あら、こんなところにシンデレラコンプレックスがかくれてたのか」と感じるからです。

女性は、ちっとも自立なんてしてないんです。少なくともこんな考えを持つなんて。

私は看護婦をしています、看護を専門職と感じています、その責任をとるつもりで働いています。命にかかわるからです。そして、私はこの仕事を中学生の頃から、やってみたくて話していました。自分で選択し、その責任をとろうと思うのです。でも、ある看護研究会で（あまり同職の恥をさらすのはマズイですが）、私たちが看護婦は、法律上、医師の指示のもとに傷病、褥婦の世話をする、と決めている以上、もし患者さんに何かあった時、責任がとれません。そこであるえらい看護婦さんが言いました。

これは保助看法という法律で、なんと、昭和二十三年に作られたものです。その頃は看護婦は、血圧すら計らせてもらえず、聴診器を首にかけていたら、生意気だったんですって。

今病棟では、心筋梗塞の患者の大の男の胸を一発力強きたたき、心臓マッサージをします。私は、小児科の時、目の前で呼吸しなくな

った女の子を見て、マスクを取りに行く時間がなく、夢中でマウス・トウ・マウスです。私が言いたいのは、時代という流れていくものの中で生きていくということ

です。看護も昭和二十三年から昭和六十三年の今までこんなに現場が違ふんです。そして、少なくとも私の仲間のナースは自分の仕事の中で看護を専門的にやろうと思

っていたし、責任もある立場だと思

って、かなりお互いいきびしくや

っていました。決して医師の指示がなければ動けない。責任は医師にとつてほしいなんて思っています。

それと同じことが、女性にも言

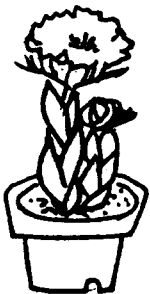
えないでしょうか。男性のもとでしか動けない。家庭の中の大きな責任は男性にとつてもらいたい。シンデレラコンプレックスは、そういう大きな胸で迎えてくれる男性を待ち望んでいる女の子の心そのものなんです。そういう心をもっていた方が、現代でも夫婦、男女の関係の仲、うまくいくって思うところがどこかにある。そうではなく、男も女もただのひとです。力を出し合って助け合っているという考え方で共に生きる。人として自分をしっかりと見つめて、判断し、自らのことを責任を取っていく。そういう関係がなぜ、気

☆子供のための離婚講座

一月二十一日（土）午後一時半～四時半。千駄ヶ谷社会教育館二階。親の立場の人、子供の立場の人、どなたでもおいでください。ハンドの会と合同で行なっています。毎回、円より子の他、春と夏の合宿の世話役である内藤和美昭和女子大講師、村井和美日本社会事業大学講師のお二人などが参加しています。

私は今二十六歳で適齢期が過ぎるところ？ というらしいですが、まじめに離婚の問題と、女性問題を考えてみたいので、これからはハンド・イン・ハンドを読ん

でいきたいと思います。



最後に石井さん(十二月号の男性のことば、"もつと徹底的に話し合う"ということを、とことんやりたかったという気持ちが痛烈に残っています。そうした場合には、きつと解決できたはずじゃないかなあと思うんですね。でもできなかったなあ...ということなんです。ね、できないなにかが自分の中にあったなあという...。"

だから私は、彼と今から、徹底的に話し合っています。男らしく、女らしくの前に、まず自分らしく生きていこうかなと思いますから。

「両親の不仲、別居の中で」

東京 Y・O(二十一歳)

(前略)

私の方は、コンピュータメーカーの日本IBMに内定をいただき、とりあえずホッとしています。たった一回の面接で決まってしまったので何だか(本当に私を気に入

って採ってくれたのかしら...?)と不安になりましたが、要は自分がその会社で働きやすればいいと開き直ることにしました。この就職活動の時期、本当にいろいろなことを考えました。あんまり考えすぎて、しまいに(私は仕事に向かないんじゃないかと落ち込んでしまいましたが、結局、せっかく理系の学科を卒業したのだから何か自分の為になる技術を身につけて仕事をしよう、それなら、システムエンジニア(SE)になつてやろう、と就職をしばらく込みました。コンピュータはこれから、優秀なSEによって支えられていくと思つたので...

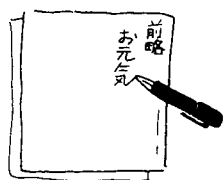
次に問題になったのが、メーカーか、金融か、ということでした。メーカーの中でも私は男女差のない外資系を考えていたので、そうすると、両者の違いは、メーカーは、男性同様の待遇をする代わりに仕事内容の方もしっかり身につけ、長く働くことを希望。金融はもちろんなる程度やりがいのある仕事を与えてくれ教育もきちんとしてくれませんが、やはり結婚退職をうながすところが多い、ということでした。メーカーはやはり人

事の対応も厳しく、金融の方は「ゆったりと働きやすい雰囲気ならばうちはいいですよ」と、とても親切で、つい心が揺れましたが、母を見ているとやっぱり何か手に技術を持っているということは自分の子供のためにも良い、と思い、厳しいメーカーを選びました。IBMは退職者も多く、「使い捨てにされる」と言われますが、(よくするに使い捨てにされなければいいんでしょ)とそんなものは自分の努力次第と、今は入ってからのやる気に燃えています。

本当なら、私大になんて行けない環境の中で、無事四年間を終わろうとし、希望の企業に就職も決まり、本当に幸せだと思えます。四年間の中で一番つらかった時期に円先生とお会いできて、本当に良かったと思います。自分と似たような状況の人がたくさんいる、と聞いた時は心が励まされる思いでした。それでもまだ時々、人の幸せをうらやんだり、ひねくれたりしてしまう時もありますが、それでも、自分が納得のいく人生を築いていけばだんだん治っていくと思います。その第一歩として希望の企業に就職できたことは大変ラ

ッキーなことであり、またそのように私が自分を軌道修正できたのは、先生のおかげなのです。先生にお会いしてじかにお話ができなかったら、誰も相談する人のいなかったあの時の私は、きつともつとひねくれた人間になっていたでしょう。「話してごらんさい」と言ってくれる人がいることが、どんなに心強いことか、同じように悩んでいる子供達に教えてあげられたらな、と思います。だから今回の集い(注・八月にあった第一回の子供のための離婚講座のこと)本当に嬉しいです。

何だか知らだらと長いお手紙になつてしまいましたが、今は学生最後の夏休みを教習所に通つて元気に過ごしておりますのでご安心下さい。また、内藤さんはじめ皆様方にもいろいろご心配をおかけしてすみませんでしたとお伝え下さい。また何かお手伝いできることがあればいつでもご連絡お待ちしております。



家計簿公開



家計簿公開のコーナーがスタートしたのは、一九八三年の十月、ハンドの三〇号からでした。以後、多くの方に協力していただき、五〇回を越えました。

さて、その第一回は東京都のKさん。新しい年を迎えた今号では、当時の掲載記事(6P)と、現在のKさんの家計簿(7P)を紹介しします。

五年前に五千七百円だった国民年金の掛け金が、今は七千四百円。物価は確実に上がっていることがわかります。

そして、もうひとつ。がんばれば、ほんの一步でも二歩でも、今より進むことができることを、教えてくれている気がしませんか？

家族構成

Kさん(三四歳) 製本パート
長男(一一歳)
二男(九歳)
三男(五歳)

家計簿内訳(58年8月分)

〔収入〕

給与(手取り)	100,000円
公的扶助(児童扶養手当)	39,500円
(児童育成手当)	27,000円
(児童手当)	20,000円
母より援助(58年4月より)	20,000円
計	186,500円

〔支出〕

食費	78,000円
住居・備品	1,000円
光熱費	13,000円
被服費	3,000円
保健衛生費	8,000円
教育費	14,000円
教養・娯楽費	10,000円
交際費	2,000円
交通・通信費	8,000円
こづかい	7,800円
貯蓄(銀行20,000、国民年金5,700、子供保険11,000)	36,700円
他、雑費	5,000円
計	186,500円

私はパート勤務なので、五、八月の様に休みの多い月は収入減となります。八月は八万八千円でした。五七年の総所得は一三六万で、所得税、地方税共に非課税です。今年の四月から母が二万円援助してくれています。家も同居はしていませんが母の家で、お風呂もあります。

教育費は、就学援助金をもらい、保育料は無料。カブスカウト隊費、二人分と、習字・野球一人分と、私の気晴し教育料三千円です。

二人分と、習字・野球一人分と、私の気晴し教育料三千円です。

こづかい。小学生二人は千二百円、五歳のが週百円、私が五千元(ほとんど本代)。

貯蓄、私の年払い保険料約一〇万。夏・冬母の家に行く費用、子供達のキャンプ、合宿代、赤字充当になり残りません。この支払分は、毎月の支出分には組み込んでありません。つまり完全な貯蓄ではなく、支出の為のもので、必要経費です。老後が心配です。

保健衛生費、国民健康保険料三千円、子供の散髪代三千円、私は

自分で切ります。

全収入の中から必ず出る金額を引いたのが食費となります。融通がきくからです(それは離婚したおかげで)。一応週一万七千円×四週十一万円の予定ですが、実際には足りません。果物はほとんど買いません。アイスクリーム、ジュースは原則として週一回ずつ。金曜と日曜、子供達は絶対、忘れません。ケーキは誕生日とクリスマス(私の誕生日は忘れしました)。

外食はハンバーガーか、スパゲッティ。私はコーヒードごまかしでも、外食一回で三千円以上かかります。

一万円札の軽い事。ため息が出ます。やはり子供がいた方が、一人より二人、二人より三人の方が確実に、余計にお金がかかります。



家族構成

私（三九歳）製本業自営
 長男（一六歳・高一）
 二男（一四歳・中三）
 三男（一〇歳・小五）

パートで勤めていた会社の社長が、仕事をやめると言う。突然の話。随分迷ったが、私も職人の人も、家族を抱えて路頭に迷うことはできない。それで、二人で出資して、社長から機械と経営権を買い、同じ場所で、同じ製本の仕事を続ける事にした。その時、初めて銀行から借金をした。

絶対納期を守る事。支払いはいきちんとする事。仕事はあったりなかったり不安定である。そして製本の売上げというのは、手仕事に対する工賃なので、自ずから限界がある。支払いが手形だと、それが現金になるまで収入がない。タコのように自分の足を食べながら、借金を返していった。

今、三年目、少しは流れをつかめる様になった。売上げは相変わらず不安定で、夏のボーナス分はとれなかったが、毎月給与として、二十三万位は使える様になった。しかし税込みである。厚生年金もないし、失業保険もない。国民年

家計簿内訳（63年9月分）

〔収入〕

給与	230,000円
公的扶助／児童扶養手当（1万減額）	29,700円
／児童育成手当（2人分）	23,000円
母より援助	20,000円
計	302,700円

〔支出〕

食費	100,000円
住居・備品（家賃なし）	3,000円
光熱水道費（電11,000、ガス6,000、水3,000）	20,000円
被服費	4,000円
保健衛生費（健康保険料8,000、散髪代）	13,000円
教育費（塾20,000、ボーイ隊〈2人〉5,000、授業料14,800）	41,800円
教養・娯楽費	10,000円
交際費	3,000円
交通・通信費（電話代含む）	13,000円
こづかい（高1・15,000、中3・11,000、小5・1,000、私・10,000）	37,000円
貯金・保険	52,400円
（積立て30,000、国民年金7,400、子供保険13,000、私掛けすて2,000）	
雑費	5,500円
計	302,700円

金では老後が不安である。

夫からの養育費は一切ない。毎月、定期的に入る公的援助、母からの援助（住む家がある）は、とても有難く、支えになった。女が世帯主でも、男が世帯主でも、生きていく事、子供にかかる費用は同じなのに、女が男並の収入を得るのは難しい。私一人だけで、子供三人は育てられない。

五年前より収入は増えているのに、生活は楽ではない。子供関係費が増えている。

食費、量が増えた。弁当もある。

電気代もかかるようになった。保健衛生費。病気はしないが、収入が増えたので、保険料が高くなった。交通費は、高校通学の定期代と、電車が大人料金となったので、増えた。教育費。次男の成績が悪く、無理に塾に入れた。せめて、高校は卒業させたい。高校は義務教育ではないので、お金がかかる。来年は、二人分だ。頭が痛い。子供の入学時期はわかるだろうと思うのに、実の父である元・夫から

は何もいつてこない。祖母である母が心配してくれて、子供の名で積立をし、入学の節目ごと一〇万ずつ祝金としてくれたので、それで全部賄うことができた。この年になっても親に心配ばかりかけている。

こづかい。随分多い。何故なら、この中に子供の衣料費も入っているからである。中学生になった頃から、彼らは自分の好みを主張し、私が買った物は着なくなった。又、コンポとかテレビゲームとか欲しいようになる。それならば、こづかいの中で、洋服を買うか、我慢して他の物を買うか勝手にしろと、こうなった。アイスも、ジュースも自分で買う。

家計簿の数字からは見えない子供達の姿。先生がうるさい。学校が面白くないとイラついて当てる。面倒臭い、何もしたくないと、無気力になる。それらを一人で受け止めながら、大黒柱である私を支える、しっかりとした土台が欲しいと思う。



ハンド・イン・ハンドは、みなさんがつくる雑誌です。
みなさんの日常考えていることや、生活の匂いが伝わって
くるような、そんなハンド・イン・ハンドでありたいと
思います。お便りをどんどんお寄せください

山口県

T・K

今年の五月に離婚して、まだ半年経ちません。別居期間が十ヶ月あったので、届けを出しても、あまり実感がありませんでした。

別居期間中、子供を奪われそうになったり、イヤがらせの夜中のTELなど、いろいろありました。が、ようやく心が静かになりました。子供を奪いに来たのが、娘が十ヶ月になる前日だったので

ですが、今でもそのことを覚えているらしく、大きい男の人（前夫は身長百八〇cm近くあったので）を見ると「こわいおじちゃん」と言

って泣き出してしまいます。一歳にもならなかったのに、子供心に怖い思いをしたんだと、かわいそ

うになります。

面接交渉権も年二回と調停で取り決められましたが、九月の面接に来たのは相手の両親でした。結婚生活を思い出すと、信じられないようなことばかりでしたが、こ

れからは娘と二人で頑張りたいと思います。

今のところ実家で働いて、給料をもらっていますが、いつまでもこのままでいるわけにもいかなないので、何かを始めなければなら

いと思っています。ハンド・イン・ハンドに入会して、なんだか心強くなりました。

愛媛県

M・H

ハンドの会の中にも、我が子を愛せない母親はいるのでしょうか。傍目に見れば、四歳と二歳のとて

もかわいい盛りの子供たちを大事に育てながら、父親でも他人だったとしても、かわいがって育てるから私に下さい」と言われたら、

即、渡す自分がわかります。直接的には、一方的な夫の裏切り、不

祥事が離婚の原因ですが、案外、私の心のこういう冷たさが、前夫の家庭離れにつながったのかもしれない。

元々、生きる事に夢を持たなくて、でも自殺する程せばつまつた気分でもないし、一人で生きて行く自信もないから結婚しました。私はずっと子供は欲しくないと

言い続けていましたが、彼も家庭に恵まれてない方の生い立ちで、子供をとてども欲しがっていたので、仕方なく同意して二人産みました。

子供ができれば、母性本能とか父性本能とか、でか上がるものではないのです。すぐそばに育児の援助もなく、生活全部が育児になつて、大げさになると、私は半

狂乱……。経済的にいつまでたつても夫は安定せず、そのことでもよい私の不安やいら立ちのはつたりしました。

「子はかすがい。昔からよく言いますが、私たちにとつては、子供が夫婦の危機を早めたのです。そして今の私にとつては、子供は重い鎖でしかありません。かわい

いと思うことはあつても、その上にわづらわしさがつきまといま

す。夫がいる時、私には子供が三人いるような意識でしたが、私もまた大人になりきれない、わがまま娘らしいです。

千葉県



多くの人が、離婚を契機に、性差別の現実を直面し、それを生み出した社会の在り方、その中で自分自身の生き方を問い直そうとしていることを素晴らしいと思います。

私自身、離婚によつて初めて一個の独立した自立した人間としての生き方に目覚めたような気がします。離婚という世間の常識からはみ出る行為をすることによつて、

社会の常識の物差しに囚われず、自分自身の価値の尺度で物事を見、考え、判断し、実行するとい

うことが、かなり自然にできるようになったと思います。大事なのは、自分自身がどう考えるかであつて、他人の思惑ではありません

よね。

まだまだ、女性が人間として自立して生きて行くには、障壁の多い社会ですが、だからこそ離婚して自覚的に人生、社会にかかわり

始めた女たちが連帯し、誇りをもって、常識という名の偏見(その多くは為政者によって都合の良いようにつくられた)を覆し、自己を社会を、より人間的に創造し直していくことが肝要だろうと思います。

■神奈川県

会で検討し、ハンドで取り上げて頂きたいこと――。

私は前夫との離婚で、子供は非法に奪われ、また実家も離散し、只一人で生きざるを得ずにおります。ハンドを読むと、お子さんがいる方、親がいらずしやる方が、当然なこととはいえ、大多数だと思います。が、中には諸事情で現実的には、たった一人で孤独と戦いつつ生活している私のような方もいるかと思っています。

そんな私のような人間のためにひとつの輪を広げ、つながりをもち、孤独、不安を、同じ苦しみを、もつ人のみに話せるチャンスが欲しいと思います。文通等の交流欄を作っていただけではないでしょうか。なかなか他の方には打ち明けきれぬことを分かちあい、支えあつて

ゆける、そんな人とのつながりの機会が欲しいと思います。

〈編集部より〉

事務局の方で窓口になることはできませんが、ハンドの中でも、いろんなつながりができることは、うれしいことです。ただ、住所や電話番号などは、無断で載せることはできませんので、文通などの呼びかけは、連絡先の掲載了解がはつきりしている方のみ紹介しています。

林さんも、住所、電話番号など載せてよろしいようでしたら、事務局までご連絡下さい。同じ環境や気持ちの方も、きつというはず。積極的に輪を広げて下さいね。



―振込通信欄から―

☆息子が中学卒業して、やれやれと安心したとたん、父が亡くなり私のギツクリ腰とも重なり、いろいろ落ちつかないことでした。先日、夫の方からこれ以上の別居は無意味だから離婚したいと言ってきました。私も離婚の方向へと決心がつかまりましたので、後は新たな

行動あるのみといったところです。

(東京・H)

☆二年半程前、ニコニコ離婚講座に参加させて頂き、生きる力を感じました。現在、別居一年半、離婚調停中ですが、その時の感動を忘れずに、これからの波も乗り切ろうと思っております。

(神奈川・M)

☆会の事を新聞で知り、大阪情報センタービルへ出向いたのは、つい昨日のような気がします。もう五年程前のことでしょうか。離婚すること落ち込んだり、近所の人や友人に心配をかけたことが夢のようです。今は一人で学習塾を経営して、のたうちまわりながらも、一応、私塾連盟にも加入して、着々と地を足をつけています。

女って強いと思います。皆さん、やるしかないと思えばできます。がんばって下さい。(大阪・C)

☆ハンド・イン・ハンドの通信に毎月、励まされてきました。離婚して、ちょうどこの十月で三年がすぎました。精神的にはどうにか落ち着き、元気で働いています。三年前は、早く年月がすぎていてほしいということばかり思っていました。(埼玉・W)

■事務局便り■

☆事務所にはスタッフ手作りの夢いっぱいクリスマスリースが飾られていましたが、もう一月ですね。事務所に週二回来ていただきますので電話でお会いできるかも。今年もどうぞよろしくお願いします。(阿部)

☆横浜女性フォーラムに、私と有賀さんで作った「自己開発プログラム」が五本入っています。利用して下さいね。(円)

☆交通事故、病気と家族中当りに当たった辰年、ハンドの皆さんからの支援は、本当にありがたかった。立直りに少し時間がかかったけど今は体調も良好です。この年は、職場の環境が変わるうだが、健康を資本に、実のある日々でありたい。(児玉)

☆ワープロ、ファクシミリなどのOA機器の性能の向上は、まさに日進月歩。去年の末、最新のものと謳って、セールスマンが持ってきたファクシミリに、「こんなこともやってくれないと頭を下げることもしばしば。これ以上、進んだら、恐ろしくて使えません、私。(有賀)



第一〇一回ニコニコ離婚講座

一月からは会場が変わります。一月二十八日(土) 一時半～五時。JR飯田橋駅隣接のセントラルプラザ六階視聴覚室で行ないます。参加費一五〇〇円。

参加希望者は電話で予約を。

二月は二十五日(土)。時間場所は一月に同じ。

☎〇三ー四〇二ー七三五四

会合のお知らせ

★東京の会合

毎月第三土曜日、千駄ヶ谷社会教育館(JR千駄ヶ谷駅下車徒歩三分)で開いています。

一月二十一日(土) 一時半～四時半。子供連れでどうぞ。

★横浜の会合

★大阪のニコニコ離婚講座

一月二十八日(土) 二月二十五日(土) いずれも午後一時半～三時

半。大阪府情報文化センター(住友中之島ビル5F)にて行ないます。参加費千円。

★大阪の会合

一月十四日(土) 午前十時～十二時、竹川法律事務所にて。

■合併号のお知らせ

二月三月は合併号のため、二月一日発行分はお手許には届きません。九四号は増頁で三月一日発行となります。



■写植から印刷・製本、四つ折りまで、今まで八万円と少しでしたが、二万円以上の値上がりになりそう、今でも赤字のハンドとしては、安い印刷屋さんを探るか、広告をとるか決断を迫られています。

■北九州市で初会合!

福岡の さん、太宰府

の さん、久留米の

子さんの三人が、遠方からはるばる、私(円より子)の泊まっている北九州市小倉のホテルまで来てくれました。三人とも仕事を休んでのこと。ハンドの会報を読むたびに、講座や研修会、例会、合宿等、集まりの多い東京がうらやましくてならないという言葉は、他の地方の人にも共通しているかもしれません。三ヶ月に一回でもいいから福岡で会合を持つことを決めて別れました。また、他の地方へ行く時は会報に前もって載せるつもりです。

☆離婚一〇番

〇三ー四〇二ー七三五四
〇三ー四〇二ー四三八五
電話相談は第一、第三土曜日が午後一時～四時。第二、第四、第五土曜日が午後七時～十時。

購読料について

現在つぎの三通りの方法をとらせていただいています。

①一年間三〇〇〇円(送料共)
②二年間まとめて前払いしてください
③出世払いもしくは免除

②③の間、二年分、六〇〇〇円のところを五〇〇〇円に。

どうしても苦しい方は、いつでも遠慮なく申し出てください。それぞれ出費が多く大変でしょうが、期限切れの通知の入った方、またはこの折にという方、いずれもご都合のよい方法でどうぞ。

(振込先) 各地の郵便局にて振込用紙は無料でもらえます。東京一四一ー二〇五四二
ハンド・イン・ハンドの会